

版画でたずねる日本の名城：その2

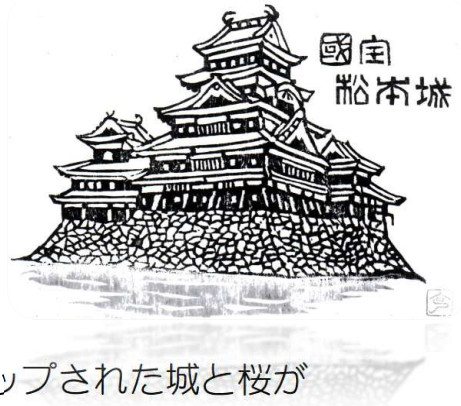
K.K

4) 国宝:松本城

黒を基調にした松本城。同じ国宝で白を基調とした姫路城の優雅さと違い質実剛健の古武士を感じさせる。秀吉の天下統一後の建てられたとされ、江戸時代には徳川家と関係の深い大名五家が藩主を務めた。

明治維新後の取り壊しが決まったが城下町の有力者が買い戻したとされる。

大小天守と三棟の櫓で形成され、春にはライトアップされた城と桜が濠に浮かび上がり、一見の価値がある。



版画でたずねる日本の名城

5) 丸岡城

福井の北方約10km、住宅街のバス停前に突然天守が出現した。現在最古とされる丸岡城だ!!

築城は天正4（1576）年とされるが、寛永5（1628）年、造営とも考えられ、明確ではない。天守石垣は、野面積み、外壁は木造、内部も板張りで古式観がある。

昭和9年国宝に指定されたが、同23年の大地震で倒壊、30年に再建された。かつては五角形の濠があったが昭和初期に埋められ、現在は公園になっている。



版画でたずねる日本の名城

6) 姫路城

駅から真正面に見える白亜の城。天守以下82棟の櫓と21棟の門が現存する国宝姫路城。その全貌をビルの屋上から眺め、大きさと、美しさを認識した。

大手門から入ると三の丸、二の丸、天守曲輪が雛壇上に構成され、堂々とした姿が目の前に広がる、美しさに加え軍事的な要塞としても群を抜いている。

その為階段を上ったり、下ったり、曲がったり、城内をぐるぐる回り、何とも疲れる。

名物の『タコ飯おにぎり』が空腹を満たしてくれた。

